

グループ会社の統合により、診断薬・治療薬の新薬開発を加速
富士フィルム富山化学株式会社を設立

2018年5月14日

富士フィルムホールディングス株式会社(社長:助野 健児)は、診断薬・治療薬の新薬開発を加速させるため、低分子医薬品の研究・開発・製造・販売を行う富山化学工業株式会社(以下、富山化学)と、放射性医薬品の研究・開発・製造・販売を行う富士フィルム RI ファーマ株式会社を2018年10月1日付で統合し、富士フィルム富山化学株式会社としてスタートさせることを決定いたしました。

また、新会社発足に向けて、大正製薬ホールディングス株式会社と、同社が保有する富山化学の全株式を取得し、2018年7月31日に富山化学を完全子会社化することを合意しました。

現在、富士フィルムホールディングスは、富山化学の低分子医薬品、富士フィルム RI ファーマの放射性診断薬・治療薬を中核として医薬品事業を展開しています。昨今、有効な治療方法がないなど満たされていない医療ニーズ(アンメットメディカルニーズ)への対応がますます求められるとともに、治療の適正化に貢献する診断の重要性が高まっている中、富山化学と富士フィルム RI ファーマを統合して、診断薬・治療薬の新薬開発のスピードアップ、さらには「診断」と「治療」の連携強化をより一層図ります。

統合会社となる富士フィルム富山化学は、新薬の研究などを行う富士フィルムと連携し、アンメットメディカルニーズが高い「がん」「中枢神経疾患」「感染症」領域において、新規の放射性診断薬・治療薬、独自の作用メカニズムを持った治療薬の開発を行っていきます。さらに、必要な量の薬物を必要な部位に必要なタイミングに送達するドラッグ・デリバリー・システム(DDS)のさらなる技術開発も推進。既に開発したリポソーム製剤技術^{※1}やマイクロニードルアレイ^{※2}を、既存薬のみならず、次世代医薬品として期待されている核酸医薬品や遺伝子治療薬へ応用展開していきます。

今後、診断薬と組み合わせた、治療薬の効率的な臨床開発を進め、新薬上市の確度とスピードの向上を図ります。また、診断薬のみならず、富士フィルムが持つ体外診断機器・試薬なども活用することで、疾患に対する「診断」から「治療」のトータルソリューション展開を拡大させていきます。

富士フィルムグループは、抗インフルエンザウイルス薬「アビガン錠」の国内製造販売承認の取得、アルツハイマー型認知症治療薬「T-817MA」の国内・米国臨床試験、新規放射性医薬品の開発・販売などを進めるとともに、写真フィルムで培った、化合物の合成力・設計力や解析技術、ナノ分散技術などの高度な技術を活かして、新規抗がん剤の研究開発や DDS の技術開発に取り組んできました。今後も、革新的かつ高付加価値な新薬の創出や DDS 技術の開発などを推進することで、新たな価値を創出し、社会課題の解決に貢献していきます。

※1 細胞膜や生体膜の構成成分である有機物のリン脂質などをカプセル状にした微粒子(リポソーム)の中に薬物を内包する製剤技術。

※2 100~2000 ミクロンの長さの微細な突起をシート上に配した薬剤送達部材で、皮膚表面に貼ることで、突起部分から薬剤を皮膚に浸透させ、体内に届けることができるもの。

【新会社の概要】

会社名	富士フイルム富山化学株式会社
所在地	東京都中央区京橋二丁目 14 番 1 号
資本金	4.9 億円
株主構成	富士フイルム(100%)
主な事業内容	医薬品および関連機器の研究、開発、製造、販売、輸出、輸入

【統合する会社の概要】

会社名	富山化学工業株式会社	富士フイルム RI ファーマ株式会社
所在地	東京都新宿区西新宿三丁目 2 番 5 号	東京都中央区京橋二丁目 14 番 1 号
代表者	岡田 淳二	熊野 嘉郎
資本金	100 億円	4.9 億円
株主構成	富士フイルムホールディングス(66%) 大正製薬ホールディングス(34%) 2018 年 7 月 31 日～ 富士フイルムホールディングス(100%)	富士フイルム(100%)
主な事業内容	医薬品の研究、開発、製造、販売、 輸出、輸入	放射性・非放射性医薬品および関連機器の 研究、開発、製造、販売、輸出、輸入

* 富士フイルム RI ファーマが存続会社となります。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

【報道関係】

富士フイルムホールディングス株式会社 経営企画部 コーポレートコミュニケーション室 TEL:03-6271-2000

【その他】

富士フイルム株式会社 医薬品事業部

TEL:03-6271-2171